

授業改善推進プラン < 英語科 >

(英語) 科 における平成 29 年度授業改善推進プランの検証

- | |
|--|
| <p>1 学年：全体的に「聞くこと」「話すこと」への苦手意識は少ないが、内容が進むにつれ「読み、書き」に苦手意識をもつ生徒が出てきている。</p> <p>2, 3 学年：発話に対する積極性は増し、意欲的にコミュニケーションを図る生徒が多い。「書く」ことに対する積極性も増してきている。</p> |
|--|

(英語) 科 における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>2 学年：目標値に対しては、「場面に応じて書く英作文」が 4.2 ポイント下回ったのを除けば、全ての項目において目標値を上回った。「場面に応じて話す」活動においては、ALT とのスピーキングテストを各学期 1～2 回は行い、その結果から「やりとり」をする力はついてきている。一方で、「やりとり」した内容について、「書く」ことはしていなかったことが今回の結果につながったと分析できる。また、区や全国の正答率と比べると、ほとんどの項目においてマイナスという結果が出た。全体的な底上げが必要であるという分析ができる。</p> <p>3 学年：目標値に対しては、「語形・語法の知識・理解」が 6.2 ポイント下回ったことを除けば、全ての項目において目標値を上回った。第 2 学年は、多くの語形・語法が登場する学年であり、語形・語法についての基礎・基本の定着が不十分であった。一方、「3 文以上の英作文」においては、区と全国の正答率を上回っており、英作文に力を入れてきた成果が出てきていると分析できる。しかし、それ以外の項目においては下回っている項目が多く、基礎・基本について全体的に定着が不十分であったという分析ができる。</p>
観点結果の分析	<p>2 学年：表現の能力以外の項目で、目標値を上回っている。一定の学習活動の成果はみられる。</p> <p>3 学年：「言語・文化についての知識・理解」が「同程度」だったことを除けば、すべての観点で目標値を上回っている。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- | |
|---|
| <p>2 学年：各学期 1～2 回行っている ALT とのスピーキングテストを継続しつつ、それに加えて、そこで表現した内容をノートやワークシートに書き、その内容を評価する。</p> <p>3 学年：「語形・語法の知識・理解」の定着を図るために、1, 2 学年に学習した内容についての復習を、今後の授業の一部として、行っていく。</p> |
|---|

(英語) 科 の授業改善策

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○引き続き、スピーキングテストなどのコミュニケーション活動を多く取り入れ、表現力を高める。○ペアワークや発表などの機会を増やし、「やりとり」「発表」する力を高める。○帯活動で継続的に行ってきたことを、定期考査の「表現の力」の問題で試すなど、授業でのがんばりが定期考査などの結果に反映されるような工夫をしていく。 |
|---|